

1. 職名・氏名 教授 廣瀬弘毅2. 学位 学位 修士, 専門分野 経済学, 授与機関 京都大学, 授与年月 1998年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済政策（4単位 毎年開講） 2年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 経済政策 理論と現実との関連を理解させる。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習を交えながら、それらの理論が生まれてきた社会的背景についても、時間を割いて論じている。と同時に、できるだけ実際のデータを読み解くことを念頭に講義を展開した。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義用に、図を用いるところではパワーポイントを利用して、理解を促進している。また、できうる限りアップトゥデートなニュースなどを講義に盛り込んでいる。 今年度は、期末試験の解答方法に工夫をさせるため、模式図を中心に、必要事項を書き込むようなスタイルにした。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 産業組織論（2単位 隔年（偶数年開講）） 2019年度は不開講	
② 内容・ねらい（自由記述） 学生にはなじみの薄いミクロ経済学を現実の経済分析に利用できるということを実感させることをねらっている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生でも普段気づきやすい卑近な例も用いながら、難解な産業組織論の理論を理解させるようにしている。数式に弱い学生を考慮してできうる限り図式を用いたパワーポイントのプレゼンテーションを挿入している。 また、今年度は公正取引委員会から事務総局近畿中国四国事務所長の藤本氏による特別講義も実施できた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（4単位） 3年生	
② 内容・ねらい（自由記述） 主に2つの目標を考えている。最近の学生は理論を敬遠する傾向にある。そこで、まず第一に前期ではあえてマクロ経済理論とミクロ経済理論の両方を復習させている。前期はミクロ理論及びマクロ理論の復習を行っているが、単なる復習ではなく、現実と理論のリンクを意識させている。後期には他大学との対抗ゼミを企画し、そのための準備を学生自身に行わせるようにしている。2017年度は、小樽商科大学、龍谷大学との組み合わせで、小樽商科大学にて開催。2018年度は、小樽商科大学、龍谷大学との組み合わせで、福井県立大学を会場校として実施した。2019年度は、小樽商科大学、龍谷大学、釧路公立大学との組み合わせで、龍谷大学を会場	

に実施した。幸い、学生自身の投票及び中立の審査員からも高い評価を得られた。
12月には、学内の smap 合同ゼミナール大会（スマコン）にも出場した。限られた時間での準備であったが、それなりの成果があったと思う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生の自主的な運営力を涵養するために、できるだけ準備段階では口を挟まないようにしている。しかし、全く放任というのではなく、要所で学生自身に立ち止まらせ、自らの行動を振り返られるように、区切りをもうけている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅱ 4年生

② 内容・ねらい（自由記述）

4年生の前期は、就職活動で忙しいため、3年生までのように担当を事前に決めて、報告させるスタイルは難しい。そこで、出席可能な学生に対して、新聞等から興味を持ったものについて、簡単なレジュメを作成させ、議論の種としている。

後期では、卒業論文の作成のため、随時進行状況を報告させている。今年度卒業の学生から卒論を義務化している。そのため、11名中11名全員が執筆中である。11名を相手とした卒論指導は、年末年始に休む暇がないなど正直大変である。しかし、内容についてももちろんだが、4月から社会人になる学生にとって、最後の文章指導の機会になるので、その重要性を理解させることにも重きを置いた。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

さまざまなネタをもとに議論させることで、就職活動中の「グループ・ディスカッション」への心理的障壁を引き下げると同時に、耳学問的に知識の豊富かを計っている。

卒業指導は、個人単位が中心となる。ただ、幅広いテーマを扱うことになるので、こちらの対応力に差が出るのは、いかんともしがたい。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎演習 2年生

② 内容・ねらい（自由記述）

2年生の段階で、あえて「経済学とはどのような学問か」を考えさせるような教材を選択して、報告させている。この目的は、内容もさることながら、これから本格的に専門教育を履修するに当たって、「経済学」という学問体系に対してイメージをわかせるると同時に、レジュメの作成、報告の作法など技術の習得も目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

残念ながら、現在のカリキュラム体系ではメタレベルでの経済学を学ぶ機会は無に等しい。そこで、簡単ではあるが経済学の入門書では古典に類する新書を教材に選んでいる。具体的には大塚久雄の『社会科学における人間』等を選ぶことにより、幅広い視野を習得できるように配慮しているつもりである。とはいえ、最近の学生の「社会への関心」を惹くのは難しい。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書購読Ⅰ 2年生後期（隔年（奇数年）担当）※2018年度は不開講、2017年度、2019年度開講。

② 内容・ねらい (自由記述)

2017年度は通常通りの外書講読とした。トランプ大統領の出現という大きなニュースに対応して、*Foreign Affairs* の骨太の論文を2本読ませた。2019年度は、*Economic Perspectives* のAIに関する論文を読ませた。最近の学生は英語の文法が理解されていないように思えるので、文法学習にも実は力を入れたのだが、2019年度生に関しては、英語力がこちらの想定よりも高かった。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

2017年度、2019年度いずれも通常の英文読解スタイルで行った。しかし、その分、文法解説(論説文を読む上で必須の関係詞の説明に絞った)と内容に関する報告など、内容は濃くすることができた。テーマは、現代的なものなのだが、学生自身の関心に結びつけていくことがなかなか難しい。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

講義「経済政策特論Ⅱ」 大学院 2017年度、2019年度開講(奇数年隔年開講)

② 内容・ねらい (自由記述)

経済理論と実際の経済活動について、産業関連の分野を担当した。

理論と現実との関連を、その限界も含めて理解させるようにした。とりわけ、まとめの回では、「市場」の扱いについて、通常の財・サービス市場と生産要素市場とで同列に扱って良いのかどうかについて討論をした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

少人数の講義であったが、事実上新規の講義になるので、まとめの回を除いて、すべてパワーポイントで資料を作成することになった。どうしても理論部分が学生には難しく感じられるようなので、グラフィカルな提示の方が望ましいと思う。ただ、結果的にきわめて少人数だったので、どれほどの効果があったのか、検証した方が良いのかもしれない。

2019年度は受講生が2名、聴講生が1名であった。ただ、現実との関連などを強調できる授業となり、久しぶりにこちらも授業を楽しめた。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名(単位数) 開講学校名

「経済学」2単位 敦賀市立看護大学 2017年度*2019年度から不開講

②内容・ねらい (自由記述)

看護師を目指す学生への一般教養としての経済学であったので、社会への関心を高めることに重点を置いた。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

理論的基礎を教えた後、それを社会保障問題や医療費の問題に適用した。

④本学における業務との関連性 (自由記述)

全く違う専門の学生に教えることで、(経済学を専門としない人にとって)経済学の何が難しいのかを理解することができた。

①担当科目名(単位数) 開講学校名

「経済政策」2単位 金沢大学 2017年度、2018年度*2019年度から不開講

②内容・ねらい (自由記述)

本学では4単位だが、金沢大学では2単位となる。それゆえ、ポイントを絞らざるを得ないが、それでも経済政策の背景にある経済理論観の対立の構図などはしっかりと理解させたいと考えた。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

ポイントを絞ったので、却って筋道が分かりやすくなった。

④本学における業務との関連性 (自由記述)

他大学の経済学を専門に学ぶ学生を教えることで、本学との違いについて認識することができた。集中講義の形式を取っているが、集中力はあるように思える。

(3)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 「池田町の経済を測る-林業・漁業の推計と経済構造の特徴-」『地域公共政策研究』地域公共政策学会，第27号，2018年10月号（査読無し） ※今年度中に、『経済経営研究』に1本出る予定です。まだ査読をパスした状態です。
②著書 （タイトル，共著者の有無（共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ），出版年，出版社名） 只腰親和・佐々木憲介編著『経済学方法論の多元性』蒼天社出版，2018年 *第8章「現代経済学における方法論的対立」担当
③学会報告等 「池田町町民経済計算」進化経済学会秋季大会 2017年12月3日 「資本主義と現代経済学」資本主義の再定式化研究会 2018年2月 「ミクロ経済学（厚生経済学）の哲学的基盤」第37回経済学方法論フォーラム 2019年9月4日
④その他の公表実績 ・書評 書評「ポール・メイソン『ポストキャピタリズム』東洋経済新報社」『東京新聞』2017年12月3日 書評「橘木俊詔著『福祉と格差の思想史』ミネルヴァ書房」『東京新聞』，2018年5月6日 書評「ジャック・アタリ著『新世界秩序』作品社」『東京新聞』，2018年9月9日 書評「デイヴィッド・ピリング著『幻想の経済成長』」『東京新聞』，2019年5月5日 書評「デイヴィッド・ハーヴェイ著『経済的理性の狂気』」『東京新聞』，2019年12月15日 ・教科書・参考書 『2019ズームアップ現代社会資料』実教出版（高校生用資料集）一部執筆 2019年発行 『2019新政治・経済資料三訂版』実教出版（高校生用資料集）一部執筆 2019年発行 ※いずれの2020年版の改訂にも参加
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター，司会活動（担当報告名，担当学会（大会）名（開催年月日）） 経済学史学会第82回大会司会（Roads Not Taken: The Coase Conundrum by Craig Freedman (University of New South Wales)2018.6.3開催）討論者
学会での役職など（学会名） 地域公共政策学会 理事 進化経済学会 監事
学会・分科会の開催運営（担当学会（大会）名（開催年月日），開催場所）
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加（参加研究会名，調査活動名（期間）） 経済学方法論フォーラム（代表：中央大学只腰先生，北海道大学佐々木先生）年2回程度 北陸学（代表：金沢大学 井出先生）年2回程度

②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

科学研究費「経済主体の位置づけから見たケインズ・ハイエク・フリードマンの資本主義観の再考」（基盤研究(C)課題番号 16K03576) 研究代表者 2016年度～2018年度

科学研究費(中央大学只腰親和先生を代表とする「哲学なき経済学は可能か」基盤 B(補助金)の研究分担者 2017年度～2019年度

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称，業務内容，担当期間） 福井県景気動向指数検討委員会（現職） 大野市都市計画審議会（現職） 国体総務企画検討会（～2018年度） 福井県大規模小売店舗審議会（現職） 福井市都市計画審議会（現職）
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称，業務内容，活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容，活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名，活動内容，活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名，活動内容，活動期間）
⑥その他（名称，活動場所，活動期間） 福井県総務部政策統計課 統計分析グループとの間での毎年（不定期もあり）な意見交換を行っている。産業連関分析や県民経済計算についての研究など。なお，表にはなっていないが，不定期に採用指数の変更検討など何度か打ち合わせが行っている。 財務省福井財務事務所主催，福井県経済情勢意見交換会が毎年2度開催されていて，参加している。
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名，開催場所，開催日時）
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名，開催場所，開催日時）
③その他（名称，活動場所，活動期間） 出張講義「学問発見講座」於：武生高校 2019年7月10日
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容，主たる活動場所，活動期間）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長, 部局長, 学科長)
(職名, 期間) 経済学科長 (2019 年度～)
(2) 委員会・チーム活動
(名称, 期間) 学生支援企画推進委員 (2016 年度) オープンキャンパス運営委員 (2012 年度～2016 年度) その他, プロジェクト毎の不定期な仕事 (推薦入試制度改革案, 合宿研修など)
(3) 学内行事への参加
(行事名, 参加日時)
(4) その他, 自発的活動など
(活動名, 活動内容, 活動期間)